

比の生活再建 底力感じた

台風被害 AMDA・大政さん帰国報告

台風30号で大きな被害を受けたフィリピンに、国際医療NGO「AMDA（アムダ）」から派遣されていた大政朋子さん（41）が帰国し、9日、岡山

市北区伊福町のAMDA事務所にて記者会見。現地での厳しい状況などを報告した。

大政さんは11月14日から今月8日まで、首都マニラや被災地のレイテ島、サマル島に滞在。マニラでは支援助物資の調達や医療スタッフの派遣調整をしたり、被災地では情報収集や食糧配布などを行った。

会見では、現地で撮影した写真を使って説明。「支援助物資が集中している場所とそうでない場所がある。特に支援が行き届いていないサマル島は高潮で壊滅的な被害を受けており、治安も良くない。被災地域による格差が広がっていた」と述べた。

現地の様子を撮影した写真を示しながら、フィリピンでの支援助活動を報告する大政さん（岡山市北区のAMDA事務所で）

るレイテ島では、子どもたちが遊べるようにとバスケットボールやクレヨンなどを贈ったことも報告。また、ガレキが多い中でも自分たちで家を立て直し、商売を始めようと多くの村民

を見て、「3元の生活に戻ろう」とするフィリピン人の底力を感じた」という。AMDAの医療チームはこれまで、延べ11人を派遣し、現在は看護師2人が活動している。